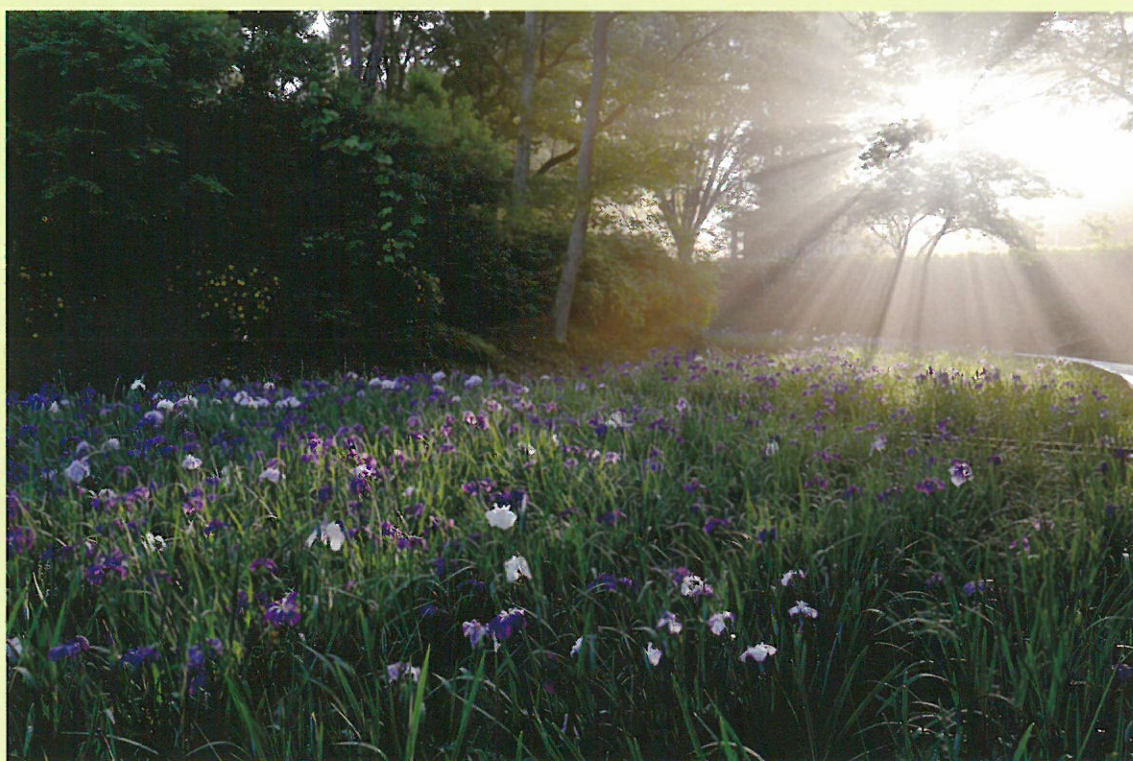


第14号

ひたちなか市文化協会会報「白亜紀」

# 白亜紀



ひたちなか市文化協会

題字 白亜紀 河野 秋月

由来 砂岩とシルト岩が互層を呈する7千5百万年前の中生代白亜紀の地層。白亜紀の岩に波の碎けるさまは悠久の命を感じさせる。文化芸術を創造し、享受し、文化的な環境の中で生きる喜びを見いだすことは、人々の変わらない願いである。人生は短く、芸術は永し、ひたちなか市文化協会の目指すものは悠久の芸術そのものである。

ある。

写真と文 「馬渡はにわ公園内 花しようぶ園」

澤邊 憲司

梅雨時期の6月中旬、「馬渡はにわ公園内の花しようぶ園」では、菖蒲の花が美しく咲き誇る季節を迎えます。

雨上がりの早朝、太陽に照らされた朝もやが幻想的な光のカーテンとなって、幽玄な景色に出会えます。

目次

会長あいさつ	20周年を迎えて	1	伝統芸能部門	
平成27年度活動報告	活動報告	1	邦楽連盟	12
総会	総会	1	吟詠剣詩舞連盟	12
芸術祭	芸術祭	2	民謡民舞連合会	12
研修会	研修会	2	伝統文化連盟	13
春の祭典	春の祭典	3	華道・茶道部門	
団体の活動紹介	団体の活動紹介	4	華道連合会	13
美術部門	美術協会	6	茶道連合会	14
美術協会	書道連盟	6	文学部門	
書道連盟	陶芸協会	6	俳句連盟	15
陶芸協会	写真家協会	7	棋道部門	
写真家協会	音楽部門	7	囲碁連盟	15
音楽部門	合唱連盟	8	文化協会組織図	16
合唱連盟	市民吹奏楽団	8	編集後記	17
市民吹奏楽団	市民オーケストラ	9		
市民オーケストラ	Bトレインジャズオーケストラ	9		
Bトレインジャズオーケストラ	舞踊部門	10		
舞踊部門	舞踊連盟	10		
舞踊連盟	洋舞踊協会	11		
洋舞踊協会				



「春の祭典」より  
華道連合会による迎花



## 20周年を迎えて

ひたちなか市文化協会

会長 榎 和美

平成28年の今年は、夏にリオデジャネイロでの4年に1度のオリンピック、そして東日本の震災から5年の年になります。前回のロンドンのオリンピックでテレビに釘付けだった日々や未曾有の災害の前に人間の無力さを痛感した日々等、過ぎていく月日の速さを実感してしまいます。

同様に月日の速さといえ、平成6年に勝田市と那珂湊市が合併して、ひたちなか市が誕生し、市の合併から2年遅れて平成8年に、勝田市・那珂湊市それぞれの文化協会も統合され、ひたちなか市の文化協会となりました。今年、ひたちなか市の文化協会が20年を迎える節目の年となりました。

ここで文化協会の20周年という事で行事目を向けると、10周年を記念して開催された総合発表会の「春の祭典」も10回となりました。今年、2月14日に行われましたが、10回記念として、彫刻の平戸司郎先

生の作品の展示や、和太鼓奏者の過足雅之先生・照沼啓子先生の「来舞・デュオ」を特別ゲスト演奏に入れ、10回記念にふさわしく華やかに行う事ができました。

また、姉妹都市の那須塩原市文化協会黒磯支部との交流会は、文化団体らしく挨拶・活動報告の他に、民謡・詩吟・舞踊等の披露があり、終始和やかに開催されました。最後に全員で合唱した、震災時に作られた「花は咲く」の歌は、心にしみるものがありました。

文化協会の20年という月日は、人で例えるならば、成人式を迎えた青年となります。この青年が次の10年20年をどう過ごし、円熟味のある大人になっていくのか、楽しみでもあります。会員の減少・高齢化等、決して良い事ばかりがある訳ではありませんが、皆様方のお知恵を借りながら、大事に育てていきたいと思っています。

## 平成27年度 活動報告

- 4月17日 ・理事会  
生涯学習センター
- 4月27日 ・会計監査  
生涯学習センター
- 5月8日 ・理事会  
生涯学習センター
- 5月22日 ・27年度総会・懇親会  
クリスタルパレス
- 7月17日 ・理事会  
生涯学習センター
- 9月17日 ・編集委員会  
生涯学習センター
- 9月29日 ・芸術祭開催  
市文化会館他
- 10月9日 ・理事会  
生涯学習センター
- 1月15日 ・理事会・舞台部門会議  
市文化会館
- 2月14日 ・春の祭典  
市文化会館
- 2月26日 ・研修会  
那須塩原市文化協会  
黒磯支部と交流会

# 総会

## 平成27年度 ひたちなか市文化協会総会

日時 27年5月22日(金)  
午前10時30分から  
会場 クリスタルパレス長寿荘  
出席者 50人  
委任状 18人(構成員 68人)  
議長 石井 幸次郎氏(Bトレイン)  
司会 藤谷 十一氏(囲碁連盟)

本年度の総会は、司会進行を囲碁連盟の藤谷氏が担当し、議長にはBトレインの石井氏が選任されました。来賓の本間源基市長及び樋之口英嗣市議会議長からご祝辞をいただいた後議事に入り、26年度事業実績、収支決算および決算監査の報告があり、それぞれ承認されました。

議案の27年度事業計画、収支予算および理事の承認については、原案通り承認可決されました。

議事終了後、アトラクションとして邦楽連盟の皆様による尺八と箏の演奏があり、参加者は優雅なひとときを楽しみました。



「邦楽連盟」の皆様による アトラクションの様子  
「千鳥の曲」「花は咲く」の2曲を演奏されました



横会長のあいさつ

# 芸術祭

## 平成27年度 日程

9月29日 ～10月4日	美術展覧会(絵画・彫刻・陶芸)
10月4日	市民オーケストラ第34回定期演奏会
10月11日	日本舞踊公演&チャリティー舞踊まつり
10月18日	吟詠剣詩舞大会第46回勝田支部
10月20～25日	美術展覧会(書道・写真)
10月25日	ふるさとの伝統芸術文化鑑賞会
10月29～30日	市内小中学校音楽会
10月31日 ～11月1日	いけばな展
11月3日	第45回民謡民舞秋まつり
11月3日	吟詠剣詩舞大会(第64回那珂湊支部)
11月8日	茶道連合会茶会
11月11～15日	児童生徒作品展
11月15日	第35回邦楽連盟三曲演奏会
11月15日	俳句大会
12月6日	合唱祭
12月13日	バレエ&ジャズダンスフェスティバル
12月20日	市民吹奏楽団第31回定期演奏会
1月24日	市民囲碁大会
1月24日	Bトレイン23周年コンサート
1月24日	第6回子ども伝統文化フェスティバル
2月14日	文化協会総合発表会 「第10回記念 春の祭典」



— 謝辞 — 陶芸の部特賞受賞者 芳賀 博さん

芸術祭は、市民が芸術文化に親しむ機会を提供し、芸術文化の振興を図ることを目的に開催しています。本年度は上記日程で開催され、各加盟団体にとっては、日頃の活動の成果を発表する場であり、多くの市民の皆様楽しんでいただけたと思います。

【美術展覧会表彰式】  
美術展覧会の表彰式が、12月13日にワークプラザ勝田において開催されました。

感性豊かな力作が多く出品された中、絵画・書道・陶芸・写真の各部門から58作品が栄誉ある各賞を受賞されました。今回受賞された皆様のご活躍を期待します。

# 研修会

海彦・山彦の文化交流

— 15年ぶりに黒磯訪問 —

文化協会副会長 平野 伸生

ひたちなか市文化協会初代日下部会長ら一行が、初めて姉妹都市黒磯市文化協会（現那須塩原市文化協会黒磯支部）を訪問したのは平成13年10月であった。今年で15年になる。横会長が黒磯へ向かう途中、車内で当時の参加者をたずねたところ、会長と他に数名同行した会員がいた。それにもまして驚いたのは、以来14年間交流を続けてきている団体があったことである。両市の「囲碁連盟」である。

正に姉妹都市の趣旨に見合った交流といえる。本協会の大きな事業の一つ「春の祭典」が終わり、今年最後の事業「研修会」を2月26日（金）実施した。8時30分、総員37名を乗せて黒磯を目指す。黒磯までは、車で2時間余もみれば辿り着く。



黒磯市立現代美術館での集合写真

途中那珂川町の広重美術館に立ち寄り、歌川広重の浮世絵「東海道五十三次」などを鑑賞した。同町には他に「いわむらかずお絵本の丘美術館」もある。また陶器の町「小砂焼」でも知られる文化の薫り高い町である。

那須お菓子の城で昼食をとり、交流会場の榊原会館には、予定どおり1時過ぎに到着した。伊澤昭夫会長さんはじめ役員の方々の出迎えを受け、会場の円卓席へ案内された。交流会は1時30分に開会された。両会長の歓迎と感謝の挨拶、両協会の活動報告のあと、黒磯支部会員による剣詩舞、舞踊の他、「日光山唄」、

「那須松坂」など山間部に伝わる民謡などが披露された。本市も民謡民舞連合会の柏倉会長らが「磯節」をはじめ4曲、郷土に伝わる海の民謡を披露した。海彦・山彦の文化交流である。最後は全員で「花は咲く」を合唱、初見副会長の謝辞で幕を閉じた。

今回の交流で取り分け有意義だったことは、平成30年2月開催予定の「春の祭典」の時期に、本市で交流会を開催することが両協会で同意されたことである。

帰郷の際、那須連山からの冷たい風が吹きおろす中を黒磯の皆さんが大勢で見送ってくれた光景に多くの会員が心に温もりを感じたことでしょう。



黒磯支部の発表



参加者全員による合唱「花は咲く」  
黒磯支部会員による箏の伴奏(写真右上)



ひたちなか市民謡民舞連合会による発表

# 第10回記念 春の祭典

市文化協会の総合発表会「春の祭典」が、2月14日、市文化会館において華やかに開催されました。

「春の祭典」は、市文化協会が創立10周年を迎えた際にその記念事業として開催され、その後、文化協会加盟各団体の一年間の活動の集大成を披露する総合発表会として毎年開催されております。

様々な分野の団体が一堂に会し、一日で様々なジャンルの芸術文化に触れることができるという催しは、他市町村にはなかなか見られない、市独自のものであり、協会最大のイベントです。

展示部門では、日展の審査員もされた平戸司郎氏の彫刻作品をはじめ、美術・文学・華道など7部門の作品が展示され、来場者を楽しませてくれました。また、舞台部門では、音楽・舞踊・伝統芸能など11団体が演奏や演技を披露しました。

今回は第10回記念ということで、創作和太鼓「来舞・デュオ」がゲスト出演し、春の祭典を締めくくりました。

## 【 舞台部門の様子 】

## 【 展示部門の様子 】

市民オーケストラ



市民吹奏楽団



合唱連盟



Bトレンジャズオーケストラ



伝統文化連盟



吟詠剣詩舞連盟



舞踊連盟



民謡民舞連合会



邦楽連盟



洋舞踊協会



茶道連合会



ゲスト出演 創作和太鼓「来舞・デュオ」 過足雅之氏・照沼啓子氏による演奏



## 団体の活動紹介

協会では現在18団体(96支部団  
体)に2140人の会員が在籍し、  
幅広い分野において活動してい  
ますのでご紹介致します。

## 美術部門

県展「50周年記念賞」受賞に

鎌田道夫氏・平戸司郎氏

美術協会会長 三好 義章

10月31〜11月15日迄開催された県  
芸術祭美術展覧会は、鎌田氏・平戸  
氏の「50周年記念賞」受賞とともに、  
根本勝美氏の「特賞」、岡田力夫氏  
の「会友推挙」他に一般入選者12名  
と本市の芸術性が高く評価される内  
容でした。これも会員相互の研鑽の  
賜と感謝しています。

又、行事の合間を縫って行われた  
9月29〜10月4日迄の「市芸術祭」  
においても会員21名が出品委嘱とし  
て参加し華を添えるとともに、外部  
審査員による厳正な審査のあり方も  
理解されつつあると考えます。

加えて、11月3〜4日に向け、風  
景研修会を、那須岳周辺現場で実施  
しました。前向きな研修姿勢に敬意  
を表します。ご苦勞様でした。

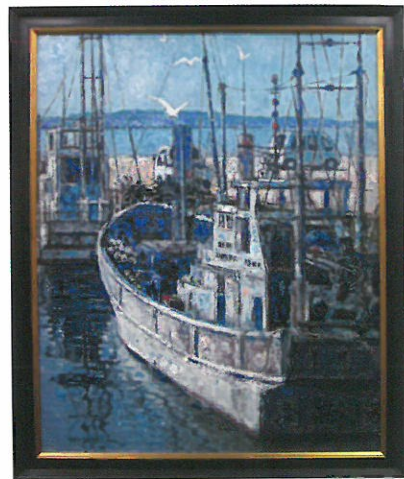
県芸術祭「特賞」 根本 勝美 氏 の 作品



風景研修会 那須岳周辺

市芸術祭美術展覧会

特賞「午後の港」 小野徳栄氏の作品



今年は忙しく過ごしたように思い  
ます。また、「市芸術祭」、「市美術  
協会展」、「春の祭典」等においては、  
会員の皆様のご協力により開催する  
ことができました。ありがとうございます。

## 第40回記念書道連盟展を軸に

書道連盟会長 長山 素龍

本年度は書道連盟展が40回目に当  
り、記念展とすることを決め、前年  
夏に企画委員会を発足させました。  
その中で記念展にふさわしい内容と

して①華道連合会とコラボレーショ  
ン、②作品集の発行、③記念パーテ  
ィーの実施、の三本柱を決め準備を  
進めました。

①では華道連合会が快く応じて下  
さり、参観者から大変好評を得るこ  
とができました。

②では作品集内容全体の構想決定  
が綿密に行われ、会員相互の協力に  
よって、立派な作品集が完成しまし  
た。

③では市長、教育長、文化協会会  
長他たくさんの方々ご臨席のもと、  
書道・華道の人達63名の参加により  
盛大で楽しい祝賀会ができました。

記念展全体としては一般86点、学  
生100点の作品を展示する中に、  
お花の展示が加わり、今までにない  
優美な展覧会が開催できましたこと  
に心から感謝しております。

秋の市芸術祭は54点の出品数で、  
昨年並みでしたが、内容的には漢字  
の始まりの甲骨文・金文から、行書  
体、更には最近の漢字かな交じりの  
調和体まで幅広いジャンルでの展示  
となり、鑑賞者の中には、甲骨文の  
作品に興味を持たれた熱心な方も  
おりました。



## 第40回記念書道連盟展より

一般の部



小品の部



学生の部



更に本年度の特筆事項として西野香葉氏が読売書法展で最高ランクの読売賞を受賞したことに加えて、日展にも連続入選されたことが挙げられます。日頃からの並々ならぬ努力に敬意を表します。

### 【書道連盟の行事】

- ・第40回記念連盟展(一般・学生併催)  
4月25～27日 市文化会館
- ・第40回記念連盟展祝賀会  
5月10日 クリスタルパレス
- ・市芸術祭  
10月20～25日 市文化会館
- ・文化協会春の祭典  
28年2月14日 市文化会館

### 「モナ・リザ」との再会

陶芸協会会長

大野

八洲男

「またお会いしましたね。」と微笑んで迎えてくれた。ルーブル美術館で「モナ・リザ」との20年ぶりの再会である。「モナ・リザ」は顔に入った亀裂のためか以前より年取って見えた。画家レオナルド・ダ・ヴィンチは、輪郭線がないスフマート法

(ミクロ点描画)を編み出し、誰にも真似されない画法で描いた。その絵は美術界の頂点に君臨している。芸術的センスを身につけるため、「ほんもの」を数多く観るようになっている。いまでは家族も巻き込んで美術館などを観覧している。

先日、武蔵野にある白洲次郎・正子邸「武相荘」に行った。白洲正子は、骨董品を見極める目利きの人といわれた。花器や食器など直感を信じ、自分の欲しいものを手元に置き、暮らしの中で使って愉しんでいた。正子は、自著に述べているように、若いときから眼力があつたわけではなく、骨董品鑑定家や美術評論家たちと交流する中で、次第に見る眼が磨かれていった。

武相荘では、むしろ外交官で、吉田茂首相の側近であった夫君の白洲次郎の遺言書が、意外で、面白かつた。「葬式無用、戒名不用」とあり、当日同行させた息子に見せたら、即座に賛同し私にもそのようにすると言っていた。私がいいものと感じるものが、本当にいいものなのか分からない、自信もない。しかし、畏れつつそのよ

うな眼力を持てるような人に近づきたい。いま可能なのは、「ほんもの」を多く観、触れ、肌で感じるしかないと思っている。

陶芸を愉しんでいるなかで、一代一品をテーマにしている。一つでいいから、上品なもの、満足できるものを作りたい。それは他人との比較でなく、自分のなかでベストと思えるものを作りたい。まだ残された時間はあるし、作り直しも出来る。1年、1年、品質が上がれば満足である。

### 個性ある「写真家協会展」を

目指して

写真家協会会長

平野

伸生

平成10年3月に設立して、今年で18年目を迎える。会員数は、茨城県美術展覧会写真部門の会員・会友21名を含めて現在43名である。

主な事業は、市芸術祭美術展、作品研究会、撮影会、写真家協会展である。文化協会「春の祭典」では、俳句連盟と写真・俳句のコラボレー

ションも行っている。

創作の極めつけは、年5回開催の作品研究会にある。「県美術展覧会」と「市芸術祭」、「協会展」を目標に、各自撮影した作品をその都度USBメモリー又はプリントして持ち寄ることを原則としている。研究会での批評は、刻限まで続くこともある。

特筆すべきは、市美術展覧会写真部門の審査委員長に、土浦市在住の写真家酒井淑雄先生（「第10回写真の会賞」受賞）を招聘したことである。先生には、芸術祭期間中に開催した「講評会」や「表彰式」にもご足勞願い、厳格なプロの目からみた作品講評をしていただいた。福田顧問の明快なギャラリートークも定着している。

撮影会は22名が参加し、晩秋の群馬県水上町「諏訪峡」、「たくみの里」を訪ね、実益と親睦を深めた。

3月開催の「写真家協会展」は、本会活動の集大成であり、顔でもある。一律でなく個性を重んじた写真展として、県内外からも一目おかれる催事であり、更なる躍進を目指したい。

この他、ひたち海浜公園等では、市観光協会フォトサポーターとして会員が目に見えない活動も行っている。

写真家協会 第17回写真展  
ギャラリートークの様子



27年度協会撮影会  
「諏訪峡・たくみの里」にて



## 音楽部門

野辺に咲く花のように

合唱連盟 コール・アニマート  
新井 佳代子

昭和55年5月、「堀口小PTAコース」が誕生しました。歌の大好きな会員40名が体育館に集い、指導者には、音大音楽科出身の青木傑子先生が選ばれ、みんなの思いがいっぱい詰まった合唱団の発足でした。

練習は明るく楽しい雰囲気で、体育館の暑さ寒さも忘れるほど充実していました。PTAのイベントや、「6年生を送る会」で発表し、子供たちに歌でエールを送りました。

平成元年、練習会場を市毛公民館に移し、「コール・アニマート」と改名し、新たな出発をいたしました。アットホームな雰囲気ですっきりとした指導者と若きピアニストに支えられ、「生き生きと元気に」を旨として歌ってきました。

発足以来早や35年。手づくりの記念コンサート4回を実施し、楽しい思い出を作りました。コンクール等

に参加することなく、市合唱祭参加、地域イベントへの参加、施設へのボランティアを主に活動しています。

20数年以来の交流を続けている施設では、クリスマス会での歌や衣装を楽しみに待っていて下さり、会場の皆さんの席に入り、手を取り合い、歌い合いながら楽しいひとときを過ごします。

これからも精いっぱい歌い続け、ちよっぴり誰かの心に留まったらいいなと思います。ひっそりと咲く野辺の花のように。



第29回二中学区ふくわの集い「音楽芸能発表会」にて

## 活動紹介

市民吹奏楽団

事務局長 宮内 慶樹

市民吹奏楽団は、12月20日に第31回定期演奏会「みんなのおんがくかい11」を市文化会館大ホールにて開催しました。

今回の演奏会は、1部で市民吹奏楽団単独演奏によるクリスマスステージを行い、2部では「市立枝川小学校合奏団」と「市立佐野小学校吹奏楽部」の生徒の皆さんにゲスト出演して頂き、各校の単独演奏と3団体合同演奏を行いました。

その他の活動は、春のコンサート・吹奏楽コンクール・市内のお祭り・結婚披露宴での演奏や市内小学校への楽器指導なども行って来ました。また、今年度は2016年1月10日に行われました「ひたちちなか市成人の集い」にて、新成人の方との演奏を行いました。

こうした活動は市民の皆さんや同じ吹奏楽で活動している方との貴重な交流の場となっています。

今後も、聴いて下さる皆様が笑顔

になる演奏や、市民の皆様可愛さるバンドを目指して活動していきます。



第31回定期演奏会 3団体合同演奏会の様子

## 選曲の悩み

市民オーケストラ団長 榎田 眞

毎回、定期演奏会で取り上げる曲

の選定には悩まされます。団員の好みも様々ですし、聴きに来て頂くお客さんもまた様々です。また、オーケストラは多種類の楽器を使いますので、全員に順番があるように考えなくてはなりません。全部の条件をそこそこ満足できるような曲は、それほど多くはありませんので、そればかりではマンネリ化してしまいました。今回の演奏会も悩んだ末の選曲でしたが、いかがでしたでしょうか？

【ボロディン作曲、歌劇「イーゴリ公」より「ポロヴェツ人の踊り」】

曲名を見て「はて？」と思った方もいらっしゃるかと思えます。一般的には「ダツタン人の踊り」として知られている曲です。コマシヤルなどでもよく使われる曲ですので、演奏を聞けば「ああ、あれか。」と思っただけだと思います。曲のタイトルは、原題にこだわりました。【モーツァルト作曲、ピアノ協奏曲第23番】

今回のソリストは、団員の奥様です。ハンガリーの音楽学校を卒業され、数々の賞も受賞されている実力派です。こういう音楽家を皆さんに

ご紹介するのも私たちオーケストラの務めです。

【チャイコフスキー作曲、交響曲第1番「冬の日の幻想」】

チャイコフスキーの交響曲は後期に作曲された第4番以降の作品が有名ですが、前期の作品の中では比較的有名な第1番を取り上げてみました。既に漂っているチャイコフスキーらしさを感じて頂けたと思います。さて、今回の演奏会はどうなプログラムになるのでしょうか？



第34回定期演奏会の模様

## 25年目を迎えて

Bトレインジャズオーケストラ

大山 潤一

Bトレインジャズオーケストラは現バンマス榎原さんの声掛けで、1992年2月に初めてメンバーが顔合わせし活動をスタートした。榎原さんとは遡ること10年ほど前に勝田市民吹奏楽団で数年ご一緒し、以来、音信不通であったがある日突然電話があった。ジャズバンドをやるかと思っているが一緒にやりませんかというお誘いであった。私は中学から吹奏楽を続けてきたが、高校時代に演奏したラプソディーインブルーや大学の時に経験したサキソフォーンアンサンブルの演奏などいわゆる正統派の吹奏楽とは違うジャジーなアンサンブルに魅力を感じていた。聴く音楽もクラシックからマンハッタントランスファアやハイファイセット、スーパーサックス等に変わってきていた。仕事上のストレスも抱えていたこともあり趣味を再開しようかなと思っていた矢先でのお誘いであり即断で参加することにした。

バンドではコンマスを任されたがジャズをかじったメンバーはおらず手探り状態でのスタートでどうやってもジャズっぽくならない。手当たり次第にジャズの本を読んだり、CDを聴いたりしてはアーティキレーションやアクセントのタイミング等テクニカルなところを模倣することで10年ほど経って漸く自身が無意識にジャズっぽい演奏ができるようになった。バンドの練習ではそういった細かいテクニカルな合わせはしない。基本的に楽譜が読め、ある程度演奏できるメンバーで成り立っているのでメンバーどうしが演奏中に影響しあう中でジャズバンドとしてのカラーが出ることを目指している。ジャズバンドは指揮者がいないので個々のメンバーの唄い方や音色といった個性が集合してバンドのカラーを醸し出す。一人メンバーが入れ替わるだけでお互いが自然と影響しあって調和したところに落ち着くので面白い。漸くバンド全体がジャズっぽくなってきた。

今年25年目を迎え、どんなバンドになっていくのか益々楽しみなどころである。



第23回定期演奏会より

## 舞踊部門

### 27年度市芸術祭参加

舞踊連盟副代表 西川 扇渉永

日本舞踊35周年記念公演を10月11日(日)市文化会館大ホールに於い

て開催致しました。

今回は記念公演という事で古典舞踊、子ども教室を含め19番、舞踊まつり18番、古典舞踊については衣装、かつら、顔師等を東京の国立劇場等で活躍している裏方さんに依頼し、普段の舞姿とは違う美しく華やかな舞台を展開致しました。

子ども教室の23名も大人達の中に入り一歩も引けを取らずに観客の方々の盛大なる声援を頂戴しました。未熟な芸ではありましたが多くのご声援を賜り会員一同感謝を致して最後の幕まで無事終了致しました。

これからも芸術祭参加とともに伝統文化である日本舞踊の発展と伝承を目標に掲げ努力して参ります。



長唄 一扇蝶 一



今年の活動報告

洋舞踊協会会長 増田 理恵

洋舞踊協会の今年のトピック  
 スは、加盟が1団体増えて5団  
 体になったことです。

市芸術祭発表も長時間に渡り

にぎやかでした。各種研修会、

様々な舞台、一般市民対象の

「一日ジャズダンススクール」

その他老人介護施設の要請で訪

問したり、小学校の街探検に協

力する活動もありました。

充実したこの1年でした。

洋舞踊協会  
 芸術祭より

ハレルヤジャズダンス  
 「ヘンゼルとグレーテル」  
 フィナーレ



高木バレエスクール「ハッピー・ハッピー」

エリーダンススタジオ「SUGAR BABY LOVE」▶



ハレルヤバレエ「不思議の国のアリス」フィナーレ



スタジオ・マービン「AVATAR (WAR)」

## 伝統芸能部門

「親子3世代、邦楽に携わって」

邦楽連盟

石川愛子社中 石川 愛子

昭和62年に邦楽連盟のお仲間に入  
れていただき、今日まで続けられる  
ことができましたのは、ひとえに連  
盟の諸先生方のお導きのおかげであ  
ります。

私は、宮  
城社直門、  
矢崎明子  
師、島崎  
栄代師に  
師事いた  
しました。  
また、私  
事ではあ  
りますが  
親子3世  
代、邦楽  
にたずさ  
わる事が  
できる幸



平成19年芸術祭での演奏



わいわいふれあい館での演奏

せをしみじみと味わっています。

私のモットーは、学校の授業、地  
域のイベント及びボランティア活動  
などに参加しているいろいろな楽器と合  
奏し、箏・三絃の魅力を伝えると同  
時により親しみやすい音楽活動をし  
たいと考えております。日本古来の  
伝統文化である邦楽を次世代の若者  
に託し邦楽演奏の楽しさを伝えてい  
きたいと願っております。

## 芸術祭吟詠詩舞大会・研修会

吟詠詩舞連盟相談役 中野 権郎

【芸術祭勝田支部第46回大会】

10月18日、市文化会館で開催、大  
会には本間市長はじめ楨文化協会会  
長の祝辞を賜り感謝申し上げます。  
特に市長からは高齢化の進む中、12  
名の幼少年の参加者があると聞き、  
うれしく思いますと激励のお言葉が  
ありました。

今大会の特徴では合吟コンクール  
18組中、幼少年1組が初挑戦してく  
れ、しかも3位入賞なる立派な成績  
をあげてくれました。今後の幼少年  
の入会に励みになると期待されます。  
【芸術祭那珂湊支部第64回大会】

11月3日、市しあわせプラザで開  
催しました。

今回の特長としては、那珂湊八景  
なる構成吟の発表があり、江戸時代  
中期から後期にかけて那珂湊周辺を  
漢詩に詠んだ詩人、井上興齊の作品  
九題に和歌を添えて発表された新作  
であり、那珂湊地区には、まだまだ  
未公開の無形文化財が埋もれている  
のではと感心させられました。

## 【歴史研修会について】

勝田支部では、毎年2月に歴史研  
修会を実施し、昨年はアウトドア  
で、水戸藩最後の藩主、徳川昭武公  
の住まいであった松戸市の戸定邸を  
見学しました。

そこで見た慶喜公の晩年の印象が  
強く、2月6日ワークショップ勝田に  
県立歴史館の由波俊之先生を招き  
「徳川慶喜」を演題にした研修会を  
開催しました。参加者130余名幕  
末の將軍慶喜公の苦悩な実像を学ぶ  
ことができた大盛況の研修会でした。



研修会講演の様子

芸術祭吟詠剣詩舞  
勝田支部大会より

幼少年3人立ち合吟



幼少年3人立ち合吟



発足45周年を迎えて

民謡民舞連合会会長

柏倉 豊

民謡民舞連合会発足45周年を迎えて、記念事業として、東北4大祭りの一つ「山形花笠まつり」のパレードに28名で参加しました。また、市民との交流行事を企画し芸能フェスティバルを開催した所、多くの参加者が集い盛大に終えることができました。

春まつり記念大会では、岩手県より民謡日本一3名をゲストに迎えて市民と共に観賞しました。また、芸術祭秋まつりは、コンクールが主体でレベルアップを

図っています。これらの記念大会はチャリティーとし、春まつりでは「大漁唄込み」のふるさと石巻市へ、秋まつりでは「篠山木挽唄」のふるさと常総市へ救済金を贈り支援しました。

また、音楽のまちづくり事業、ボランティア事業と幅広い活動を行い、福祉施設への訪問活動などが評価され、市社会福祉協議会より感謝状を受賞しました。

今年度の芸術祭鑑賞会

伝統文化連盟会長

鈴木 隆

10月25日(日)市文化会館大ホールで、市芸術祭「ふるさとの伝統芸術鑑賞会」として、特別ゲストのパーカーション・薩摩琵琶奏者の馬場氏と天台聲明の茨城天台仏教青年部を迎え、伝統芸術の素晴らしさを感じて頂く場として実施しました。

第I幕は「古典へのいざない」として舞台創作華道、能楽、三曲演奏と日本舞踊の幕開け、第II幕は「こころの叫び」響き合うものとして(パーカッション、尺八二重奏、龍笛、天台聲明)、和洋のハーモニー(大正琴、チェロ、箏、尺八、カホン)の演奏、磯節は(唄、踊り、天台聲明)、第III幕は「日本の歌/思い出のメロデー」で、親から子へと受け継がれてきた日本の名曲の民謡や、わらべ歌と童謡を和楽器用に編曲し、チェロとコーラス、日本舞踊こども教室の踊りを交えての演奏で、それぞれの異なる楽器と演奏者の心一つにして、作り上げた日本の歌の共演です。

今後とも伝統文化連盟は、日本の伝統芸術の普及に努力して行きたいと思っております。



芸術祭秋まつりでの民舞発表



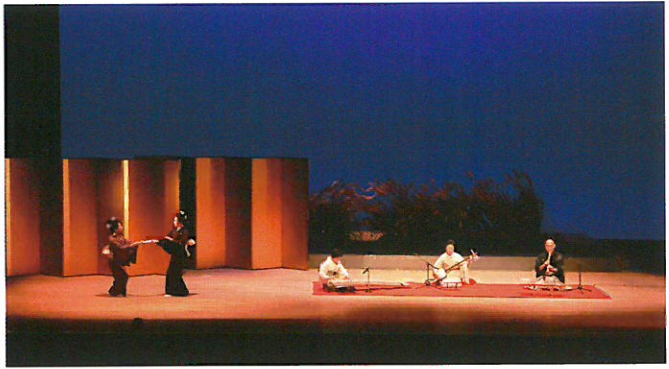
市民芸能フェスティバルの開幕



山形花笠まつり踊り参加者



和洋のハーモニー



三曲演奏：尾上の松



磯節



響き合うもの



日本の歌：思い出のメロディー

## 華道・茶道部門

「創立20周年を迎えて」

華道連合会会長

杉山 豊和

華道連合会は旧勝田市と旧那珂湊市が合併し20周年を迎えました。合併前にはお互いに20年ほどの活動実績があり、実際には40年ほどの歴史があります。

今回の「記念いけばな展」では各流派個性豊かな作品を展示し、多くの方々にご鑑賞いただきました。

こども教室では、小・中学生の多数の作品展があり、素晴らしいものとなりました。

また、11月3日には本間市長、木下教育長をはじめとし、多数の皆様のご臨席



いけばな展 こども教室の作品

のもと、華やかに祝賀会も実施することができ、会員一同大変うれしく感激した一日となりました。

いけばな展 出瓶者の皆様







受賞者の皆様



祝賀会の様子

## 研修会 永青文庫にて

茶道連合会会長 高野 新一

本年も4月に総会を開催し、1年間の収支決算及び事業計画等の承認を得て事業が開始された。

今年の研修は、5月24日(日)目白台にある永青文庫を探訪した。永青文庫は、江戸時代の末、弘化2年(1845)に細川家の下屋敷になり、その一隅にあった家政所が、後に永青文庫となる。

細川家は、桃山時代の幽齋(1534~1610)が初代となり、2代三齋(忠興1563~1645)に、大名の基礎をつくる。この南北朝時代からの文化的遺産を研究・保管・紹介等をするために昭和25年(1950)に設立された。

設立者は、16代当主護立(1883~1970)であり、細川家伝来の物、その他蒐集品は、横山大観や菱田春草らの近代日本画、唐三彩等の中国美術、白隠や仙厓等の近世の禅画等が中心となる。

茶道の世界では、特に三齋が利休

七哲の一人になる。唐物茶入「利休尻ふくら」は、2代將軍秀忠より拝領したものである。大ぶりの粉引茶碗「大高麗」を愛用し「三齋流」と呼ばれ、独特の美意識がうかがわれるものである。

今回の特別展示品は、細川家2代、3代間の起請文であり、家督相続において存亡の危機にあったことがうかがわれた。

来年は、何処の美術館を探訪するか楽しみにしながら帰路についた。

一方、茶道連合会の主事業である

芸術祭連合茶会は、11月8日(日)に、表千家和室、裏千家立札席にて開催し、天候の悪い中200名近くのお客さまを招くことが出来、大満足でした。

来年は、11月6日(日)、表千家立札席、裏千家和室にて行います。皆様のご来場をお待ちしております。



— 表千家 —

— 裏千家 —



## 芸術祭連合茶会

## 文学部門

### 第40回記念芸術祭参加俳句大会

俳句連盟会長 大野 ひろし

第40回記念市芸術祭参加俳句大会が11月15日(日)市の文化会館で開催された。

今回は過去最高となる900句が寄せられ、参加者も例年を越える73名と盛会であった。大会は主催団体の一つである文化協会の榎和美会長より挨拶を頂いた。続いて、当俳句連盟の機関紙「むつみ」の梅原栄二編集長が「思想の源流」というテーマで講演を行った。日本人と外国人の宗教感の違い、日本語の言葉や漢字の意味の深さが、俳句という文芸を成り立たせていると話された。

午後からは席題「二」を詠み込む句会が行われた。募集句・当日句とも当会員から多くの入賞者を出した。

### 「募集句」の部

県教育長賞 藤 洋子

子には子の暮しありけり遠花火

市文化協会会長賞

吉元 絹江

市俳句連盟会長賞

飯島 能子

天高し嬰抱きなほす重さかな



芸術祭参加俳句大会

### 「当日句」の部

県知事賞

塩谷 きみこ

リハビリの胡桃二つに残る艶

県教育長賞

吉元 絹江

百歳と二歳揃いのちゃんちゃんこ

市長賞

水野 かつ

布団干す二階傾くほどに干す

市文化協会会長賞

大野 ひろし

二杯目を所望試飲の新走

県俳句作家協会会長賞

藤 洋子

浜に嫁し二の腕太く秋刀魚割く

市俳句連盟会長賞

梅原 栄二

死ぬるまで二男は二男吾亦紅

## 棋道部門

### 囲碁連盟1年間の活動

囲碁連盟会長

藤谷 十一

平成27年度の行事として、連盟最大の「第21回ひたちなか市民囲碁大会」を1月に行いました。これは、近年毎年150人規模で運営していた全国的にも地方都市ではなかなかできないことではないかと考えます。また、この大会には日立市や常陸太田市からも友好・親善ということでも多数の方が参加していただいています。当市囲碁連盟からも他市の大会に参加して、お互いに囲碁の普及に努めています。

そのほかの行事として、県北市町村親善囲碁大会にも参加しています。

連盟の中では毎週土曜日にミニ大会を行うなど研鑽に励んでいます。

近年囲碁人口が少なくなり若者の愛好者が減る中、茨城県高校囲碁連盟では、活動の一環として囲碁講座を開催するなど普及に尽力しています。そのうち1月に一般の者と対局して実力を養成するという集まりがありました。主催者から当市囲碁連盟にも要請があったので7段〜5段の有段者7名が参加しました。

若い愛好者が増えてほしいと願っているわたしたちは積極的に参加しました。



芸術祭 市民囲碁大会

ひたちなか市文化協会組織図	分野	団体名	代表者	電話番号
	美術	美術協会連盟 書道芸協 陶芸家協会 写真家協会	三好義章 長山素龍 大野八洲 平野伸	029-262-2428 029-272-7865 029-274-2069 029-272-2555
	音楽	合唱連盟 市民吹奏楽団 市民オーケストラ Bトレイン	榎川和美 柳又浄 榎田原 榎	029-285-6085 029-285-0007 029-285-5143 029-276-2610
	舞踊	舞踊連盟 洋舞踊協会	岩井友紀 増田理恵	029-273-6812 029-272-6423
	伝統芸能	邦楽連盟 吟詠剣詩舞連盟 民謡民舞連合会 伝統文化連盟	初見宗郷 澤田達男 柏倉豊 鈴木誉志男	029-273-9144 029-262-4568 029-274-2179 029-274-1152
	華道・茶道	華道連合会 茶道連合会	杉山豊和 高野新一	029-272-9392 029-272-0659
	文学	俳句連盟	大野ひろし	029-263-6477
	棋道	囲碁連盟	藤谷十一	029-273-2546

編  
後  
集  
記

暖冬が予想されていましたが、気温差が大きくなり、暖かさと厳しい寒さとが交互にやってきた、今までにあまり感じたことのない季節を過ごした感がありました。

平成27年度のひたちなか市文化協会の会報「白亜紀」の第14号をお届けします。

榎文化協会会長始め、各団体の方々から、今年度の活動の実績を綴った貴重な原稿と写真をお寄せいただきました。

世の中では、刻々と変化する政治や経済、オリンピック関連の話題やスポーツの結果に一喜一憂する姿がメディアなどを賑わせています。このような中、腰を据えた、地道な、裾野の広い市民文化活動の良さ、大切さも大事にしたいところです。

各文化団体の皆さまの活動に感謝し、更なるご活躍をお祈りします。

編集委員長

編集委員

委員長 磯崎 洋二

曾我部 富代

若柳 恵吾

石川 愛子

高橋 康子

事務局

木田 伸子

「春の祭典」より



会 報 白 亜 紀  
発行日 平成28年3月31日  
発行者 ひたちなか市文化協会  
事務局 ひたちなか市市民生活部生涯学習課  
芸術文化振興室（生涯学習センター内）  
TEL 029-272-6301  
FAX 029-272-9297